**顔の見える関係が、地域を支える力に**

「顔の見える関係」を、どれだけ大切にできるか。  
吉川市では、民生委員・児童委員協議会（民児協）と市社会福祉協議会（社協）が、その答えを日々の実践で形にしています。特別な事業体制を作っているわけではありません。しかし、一つひとつの対話の「密度」と、互いに寄り添う関係の「質」が、地域を支える大きな力につながっています。

**日常の関わりから育つ信頼**

包括支援センターが毎回の定例会に参加している姿にヒントを得て、社協も地区定例会への参加を始めました。会議で受けた質問には必ず次回までに回答。どんな小さな相談にも「必ず返す」という姿勢を大切にしてきました。その積み重ねが、民生委員の「困ったときには社協に相談しよう」という信頼につながっています。

👉 **キーワード**：「困ったときには社協に相談」が出来る関係

　一方で、社協からは「頼み事のときだけ顔を出す関係では、形式的な会話しか生まれず、事業も実りません」との声もありました。顔を合わせる機会を重ね、雑談も交え、同じ目線に立ち、共に汗を流す姿勢こそが、本物の信頼関係を築いています。

**ポイント**

　市域すべての地区から代表が社協の理事や評議員に加わることで、地域の声がそのまま社協の事業に反映されているのも**吉川市ならではの特徴といえるでしょう。**

**「声を出せない人の声を拾う」**

「行政が市民全体の声を拾うのに対して、私たちは“声を出せない人の声”を拾う役割を持っています。だからこそ、民生委員さんとの連携は欠かせません。」

　ある社協職員の言葉です。地域に密接に関わる民生委員と、制度的に支える社協。互いの強みを補完し合う関係が、吉川市ならではの支え合いを形づくっています。

**「ワンチーム吉川」の強み**

**「ワンチーム吉川」の土台は“楽しむ”こと**

　吉川市民児協には「まずは委員活動を楽しむこと、議論は雑談の延長で良い」という方針があります。この「楽しむ」雰囲気づくりが、委員の積極的な発言を促し、定例会を活性化させています。

👉 **キーワード**：「楽しむことから始まる地域福祉」

　さらに、CSWも同席し、地域性の近い地区同士でのグループミーティングなどの工夫により、民児協は関係機関との連携を深め、**地域全体がまとまった『ワンチーム吉川』として動く土台**を築いているのです。

**相互理解が生む力**

　吉川市の強みは、制度の仕組みに支えられつつも、日常的なやりとりの中で相互理解が深まっている点にあります。会議で意見を伝えやすい雰囲気、何でも相談できる関係性――。こうした「理解し合える土壌」があるからこそ、地域福祉計画も“自分事”として推進できるのです。

**（関係性の図解）**

吉川市の連携（一体型）

一般的な連携（双方向型）

**取材を終えて**

　社協職員が定例会に参加している地区は少なくないと思います。理解しあい、助け合える関係を構築できるよう、事務連絡や依頼以外でも交流する機会を作ることが、地域福祉の向上において重要だということを改めて実感しました。